

・競技運営に関する注意事項

1. 監督主将会議で決められた事項を選手並びにチーム関係者に周知徹底させること。
2. ベンチに入れる者は、登録申込書に記載され、ユニホームを着用した監督、選手のほか、チーム責任者、マネージャー、スコアラー各1名とする。ただし、チーム責任者、マネージャー、スコアラーは、メンバー表に記入され、私服を着用しなければならない。また、グラウンドには出ることはできない。
3. 組み合わせ表にある試合開始時刻はあくまでも予定である。大会運営上、予定時刻の前に試合を開始することがあるので、チームは試合開始予定時刻1時間30分前までには球場に集合し、本部へ到着した旨を届け、メンバー交換用紙を受け取り指示を受けること。
4. メンバー表(登録選手の内から20名以内を記載)の提出は、第1試合は開始予定時刻の30分前に監督が主将を同道のうえ提出し、攻守を決定する。第2試合以降は前の試合の3回終了時に提出する。なお、女性の選手の左端に○印を付けること。
5. メンバー表に記載のない選手は、その試合には出場することができない。なお、試合中に9名以上の選手がいない場合はそのチームは棄権とする。
6. シートロックを行わないことから、攻守決定後、本部の指示によりグラウンド内の所定の場所にて先発バッテリーの練習を認める。この場合の捕手は、プロテクター、レガーズ、ヘルメット及びファウルカップを必ず着用すること。なお、試合前に規定集、競技者必携及び使用する道具類の確認を受けること。
7. 本部からの指示がない限り、グラウンド内でのトス、フリーバッティングは禁止する。ただし、第1試合のチームはトスバッティングの練習を外野で行っても良い。
8. ベンチ内での電子機器類(携帯電話等)の使用を禁止する。メガホンはベンチ内1個に限り使用を認める。
9. グラウンドの整備及び試合中のファウルボールの回収並びに球審へのボール補充は、両チームの協力で行うこと。
10. 守備が終わり最終のボール保持者は、ボールを転がしたり、審判員または相手のチーム選手に渡したりしないできちんとマウンドに置いてくること。
11. 選手交代の通告は必ず監督が行うこと。なお、「代打」「代走」の場合は選手を同道して通告すること。
12. 雨天の場合の中止の連絡は、連日開催の場合を除きその日のチームのみとする。他のチームは独断で判断せずにHPを活用するとともに、必要な場合は連絡責任者が本部に問い合わせること。
13. 試合中の禁止事項は、全軟連取り決め事項を適用するほか、次の事項も遵守しなければならない。
 - 1) 試合が開始されたら、控えの選手は試合に出場する準備(交代選手のキャッチボール)をしている者のほかは、ベンチ内にいなければならない。
 - 2) 試合中、控えの選手が外野等のファウルグラウンドでランニングをしないこと。攻守交代中は認める。
 - 3) 試合中、ブルペン等ファウルグラウンドでウォームアップを行う場合は、人数を2組(4人)以内とする。
 - 4) 「ストライク」「ボール」「アウト」「セーフ」の判定に対する不満の言動は厳に慎むこと。
 - 5) 試合中の監督、コーチによる選手の練習の補助は認めない。
 - 6) 攻守交代は駆け足でスピーディに行うこと。
 - 7) 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すなどのタイムは認めない。
 - 8) 球場内のゴミの持ち帰りに協力すること。

競技上に関する注意事項

1. 正式試合

- 1) 正式試合は7回戦であるが、暗黒、降雨などでイニングが最終回までに進まなくとも、5回を過ぎれば試合は成立する。その場合は、等しく完了した回までの合計点で試合を決する。
- 2) 3回以降20点差、5回以降7点差が生じた場合は、得点差によるコールドゲームとする。
- 3) 1時間40分を経過した場合は新しいイニングには入らず、均等回の得点をもって勝敗を決定する。
- 4) 暗黒、降雨などで、試合が5回以前に中止となった場合はノーゲームとし、特別継続試合は行わず、再試合とする。

2. 延長戦

- 1) 最終回数及び試合時間(1時間40分:ただし、決勝戦及び代表決定戦は適用しない)が経過して同点の場合は延長戦は行わず、直ちにタイブレークとする。
- 2) タイブレークは、継続打順、無死1塁2塁(前回の最終打者を1塁走者とし、2塁の走者は前の打者)とする。
- 3) タイブレークは、1回(試合時間内である場合は2回まで)とし、なお同点の場合は、抽選により勝敗を決定する。なお、決勝戦及び代表決定戦は勝敗が決するまで継続する。

3. 投手について

- 1) ローゼンをお手玉、投げ捨て等をしてはならない。投球した際に白い粉を飛散させないようにすること。
- 2) 捕手からの返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
- 3) 軸足を外してのみの牽制は自粛すること。3塁への偽投は禁止する。

4. 捕手について

- 1) 「ボール」を「ストライク」に見せかけようとして、ミットを動かす行為をしてはならない。
- 2) 「ボール」を宣告され、これみよがしにミットをしばらく捕った位置に置いておく行為をしてはならない。
- 3) まだ球審が「ストライク」とも「ボール」とも判定していないのに勝手に判断し、投手へ返球する行為をしてはならない。
- 4) 投球を受けた捕手は、球審の「ストライク」「ボール」の宣告後、速やかに返球すること。

5. 打者について

- 1) バッターボックスに入るときは、ホームベースを横切らないこと。
- 2) 打者は、速やかにバッターボックスに入り、バッターボックス内でサインを見ること。
- 3) インコースの投球を避ける行為をしながら、当たりにゆく行為をしてはならない。
- 4) 次打者は、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。低い姿勢で待つこと。

6. 抗議権を有する者は、監督、または当該プレイヤーのいずれか1名とする。

7. 試合回数にかかわらずタイムの制限は攻撃側タイム3回、守備側タイム3回とする。なお、特別延長戦となった場合は、2イニングスに1度行くことができる。

8. 塁上の走者及びコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。

9. 投手は変化球を投げることを禁止する。変化球を投げた場合のペナルティーは、全軟連「競技に関する連盟特別規則」の定めるところによる。

群馬県野球連盟渋川北群馬支部ホームページ

★試合経過等はこちらへ！

<https://www.gsk-shib.com/>

有馬野球場の電話番号：24-2965